

基本セオリーがわかる 花のデザイン

花職^向上委員会

花職向上委員会より出版の4冊の本を利用し、これから学習していきたい方、まとめ直したい方、後世に伝えたい方 たちにより有益で、まとめなおした情報を発信するべく、youtube 解説とのコラボで実現した資料となります。プリントし、是非活用ください。
こちらの資料は、どなたでも自由に使用してかまいません。

A: 必須グループ	B: おすすめテーマ	C: 深掘りタイプ
-----------	------------	-----------

基礎科①～③に関しては、上記のように3つの
カテゴリーに分類いたしました。

A: 必須グループ

これは絶対履修や確認をするべき重要な
テーマを記載しています。

B: おすすめテーマ

理解しやすいテーマをまとめました。
必須ではありませんが、おすすめです。

C: 深掘りタイプ

履修はどちらでもいいかな？という存在です。
時間があるなら是非！も入っています。一部に
は、履修しなくていいのでは？と思うものもあ
りますが、先生業等をする方は、知っていて欲
しいテーマです。

※初版④はデザイン・造形ですので、
この分類はありません。



←再生リスト

基礎のサポート「新資料とレジュメ」など

youtube・ニコニコ動画 にて無料レクチャー中！

シリーズ本と通称（ナンバリング等）・発刊年



初版④
ep4
2014 年



基礎①
ep1
2016 年



基礎②
ep2
2018 年



基礎③
ep3
2020 年

最初の基礎とはなりますが、基本的に「花に慣れた状態」として進めていきます。植物に触る、アレンジメントをする等の行為に慣れた方は、これを「柱」として学んでいく事をおすすめします。

初級から考察しなければならない「リズムカル」最初はここから入ります。リズムカルに卒業はなく、生涯研究していくものとなります。また植物を扱うなら、最低限知らなければならない「自然界のルール」から入ります。

Chapter 1

p16[知識]植物の現象形態			
p18[知識]リズムカル(配置と段付け)		p20[技術]特別講座・初級用現象形態	p16[知識]植物の扱い方～種類
memo A: 必須グループ	memo B: おすすめテーマ	memo C: 深掘りタイプ	
p12-応用的な現象形態		p10-基本的な現象形態	p14-生長(成長)的
			p15-生長の+グループ分け

実技としては、現象形態のみをしっかり理解しておけばいいです。リズムカルは基本操作を理解できれば、他のテーマで学んでいくことができます。

はじめての「非対称」を考えていきます。まずは他の情報があれば、それを空にしてインプットするところをおすすめします。非対称は、ここから入って、バランス・輪郭・構図・情報と基礎の仕上げまで深くかかわる内容となります。youtubeにもパーフェクトガイドですすでに何本もアップロードしています。是非活用ください。特に Gg の特性は重要です。また簡単な比率などの基礎知識も同時にインプットしておいてください。

Chapter 2

p36[知識]非対称バランス		p37[知識]比率	
p38[知識]古典的な3つのグループ分け		p40[知識]重点や密集と拡散などに転換	p42[知識]構図 ※ep3で詳しく
memo A: 必須グループ	memo B: おすすめテーマ	memo C: 深掘りタイプ	
p26-共同形態で植生的		p27-トラディショナルな植生的	p28-想像上の生長点に向けて制作した植生的
p30-密集と拡散		p29-パラレル構成で植生的	p31-下方に「密集と拡散」
p32-簡単な非対称		p35-本来のグループ分け	p33-地面造形
			p34-自由な非対称

実技としては、1章と左程変わらない程度のもので認識しています。バランス点の移動の効果はしっかり確認しておいてください。またパラレル程厳格でなくても、似かよったテクニックで十分(パラレルを手本として)なので、リズムの確認等に最適です。1章で行ったリズムカルは、共同形態で植生的では大変深い内容も簡単に確認できます(p39)。これは1章(p19)まとめポイントでも明確に確認できます。

3章の解説ページでは、本題意外の定義ものをせております。これはセミナーでも同様にこのタイミング(情報が少ない時)で、一緒にディスカッションとトレーニングを行っていただく為です。そして輪郭の問題は、生涯かけて研究していくこととなるでしょう。

Chapter 3

p54[技術]フローリストナイフ			
p58[知識]フォルムとフィギュア		p56[知識]水揚げ(切花の管理)	p54[知識]吸水性スポンジ
memo A: 必須グループ	memo B: おすすめテーマ	memo C: 深掘りタイプ	
p47-高く挿す(開く輪郭がおススメ)		p46-ラウンド 2種の輪郭(開いた輪郭)	p49-骨組み ※ep2で詳しく
p51-フィギュアの世界		p48-平行構成(両輪郭共に)	p50-高く挿された花束
		p53-2種の輪郭	p52-かたちの世界

輪郭が非対称性なものがここでは、Figur(姿)として考えていきます。Figurを美しくする為のルールがいくつか存在していますので、その定義を明確にマスターしておく必要があります。それはここ(基礎)でなくても習得できますので、様々な造形の際にでも、毎回Figurは確認してほしいと願います。

かなり多くの情報が入っています。基本的なことすぎて退屈にならず、自分の基礎が明確に備わっているか、1つずつ確認をしてください。

Chapter 4

p76[技術]花束			
p84[知識]挿し順		p80[知識]表面的調和(色彩調和)	
p87[知識]配置・構図(リズムカル)		p88[知識]アレンジメントの確認(ALL)	p83[知識]内面的調和
memo A: 必須グループ	memo B: おすすめテーマ	memo C: 深掘りタイプ	
p65スパイラルの花束		p64-パラレルの花束	p70-質感形態
p71-マスアレンジメント		p66~色彩4種(統一と変化)	p74-季節の調和
p72-リズムカルな片面アレンジメント		p73-横長に展開したリズムカルなアレンジメント	p75-表現の調和 ※ep4・デザイン造形にて

実技的な部分が多いですが、特に「挿し順」「配置・構図」を筆頭に基本的な「アレンジメントの確認」も重要案件です。ここでよろそかにすると基礎③仕上げの段階で、理解に苦しむ定義が多くなってしまいます。自身で足りてない箇所があれば、時間をかけて習得する方が良いカテゴリーです。確実なステップアップを！

知識・技術が一変する重要なカテゴリーです。確実なステップアップには、この段階が「私は」必要だと思っています。

Chapter 5

p100[技術]全般			
memo A: 必須グループ	memo B: おすすめテーマ	memo C: 深掘りタイプ	
p94-交差		p98-拡散させる＝引き戻す(ver横長器)	p95-交差の入った作品のバリエーション
p96-相互に入り交じって			p98-拡散させる＝引き戻す(ver横長以外)

3つのカテゴリー、どれも大切なテーマですが、誤解されやすいところかも知れません。フローリスト(花屋さん)にとって、この段階で不要と判断する人も多く見えました。その即戦力として使えないと判断してしまった事が主な要因です。基礎科③の「植物のタッチ・個々の表情」まで行けば、意味も活用性も理解できるのですが、この段階で重要な要素「自然な交差の仕方」「花の向きの単純操作」「構成(システム)で首尾一貫する手法」を知ってから、基礎③に行くのが基本と考えます。

全く異なる方向で、植物を活かしていく W テーマとなります。欠かせない情報となりますので、確実なステップアップを求めます。

Chapter 6

p118[知識]自然風(植物の内面を見る)			
p126[知識]動きの調和		p125[知識]良作には欠かせない「何か」=価値	
memo A: 必須グループ	memo B: おすすめテーマ	memo C: 深掘りタイプ	
p110-植物の扱い方「自然風」		p114-静止とリズム	p112-ナチュラルリッヒなオブジェクトハフト
p116-動きが主題			p113-そのほかのナチュラルリッヒ

まずは植物の扱い方として、最大の利点がある「自然風」です。基本的に3つの切欠があります。1. 歴史的な発展ですが、知識として(歴史として)知っていて損のない情報です。しかし実用的だとは思えません。2. キャラクターを長さや角度に転換して確認していく方法が、一番確実な部分です。そして3. 表情豊かなには、今後より発展的にこの世界でデザインをしていくなら、必要な情報です。様々な素材(材料)で、何パターンかチャレンジすることをおすすめします。動きの世界では、一番短時間に多くの動きの世界を知る方法が「動きがモチーフ」です。その中で価値の考え方を学び、ついでに動きの調和に関しても、少し知識を入れておくと良いでしょう。動きの調和では、今後様々なアレンジメントにおいて、必要になってきて、その都度学習ができますので、マスターするより知って欲しいです。

シリーズの中で、固有な情報を持っているのは、花（フラワーデザイン）独自の理論形態であるからです。後世に伝えるべき必要のあるものだけに特質した内容となり、ここでしか学べない内容も多く存在します。

パウハウスからはじまった理論形態ではありますが、主に「空間」に関して、詳しく研究していきます。正直ここで学ぶのが一番解りやすいだけであって、以下のパターンに今後の有効性は、感じられないのが正直な見解です。空間を理解する為のテーマという認識で十分です。

	p20[知識]空間分割				
	p20[知識]活きた外観空間・死んだ外観空間		p22[技術]テクニック		p18[知識]パウハウス
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ	memo	C: 深掘りタイプ
	p12-形式・線的		p16-枕構成		p10-即物主義的
					p14-小枝の枠

必須のテーマが古典的な「フォーマル・リニアル」のみというのが、少し恐ろしい結果ではありますが、ここでの重要なものは、スタイルでなく「システム」のみが重用だと考えています。どのようなスタイルでもいいので「空間分割」と「活きた外観空間」等は確実にマスターしたい部分です。

Chapter 1

知識として知って頂きたい内容は、多くあるのですが、それぞれのテーマで分布できているので、マーキングしたのは「ピリオド・コンテナー」のみとなっております。「イギリスの伝統」「A 軸の形成と変革」「D 軸の形成・変革・重要性」に多くの注目をしたいと願います。

	p51[知識]ピリオド コンテナー				
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ	memo	C: 深掘りタイプ
	p26-イギリスの伝統		p31-新古典		p28-最古の三角形デザイン
	p32-新在来 (neu konventionell)		p34-モダン・クラシック		p29-自然な古典的フォーム
	p36-独自のクラシックフォーム		p46-＜低い＞新古典		p38-その他のクラシックたち
			p48-古典的フォームの新解釈		p45-低いトライアングルデザイン

まずは「イギリスの伝統的なスタイル（ブリトラ）」各軸の意味も含めしっかりと記憶してください。最低限1度でいいので、それぞれの意味と価値を理解してからようやくスタートです。様々なスタイルでも学び取るところはあるのですが、必須とした部分は、システムの方でも書いたように、重要な要素のみをしっかりとマスターして頂くことを考えています。基本形では、A 軸と D 軸の形成、変革、発展を軸にしています。もちろんその他のパターンでアレンジメントテクニックの強化も期待できます。

Chapter 2

自然界の散策から誕生した、めずらしいケースの花独自の造形となります。基本的な歴史の流れ、誕生の仕方は必ず知っておくべき問題だと認識しております。そして実際に行う際には、基礎科①で行った「リズムカル・段付け・非対称・美しいフィギュア・挿し順・複数焦点のルールとコツ・自然風（キャラクターへの配慮）」とかんがりの基礎操作部分が重要になります。履修を重ねながら基礎①からの確認が必要です。

	p79[知識]パターン(重点の移動)				
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ	memo	C: 深掘りタイプ
	p62-骨組み		p66-織り込まれた		p64-巻かれた
	p68-織り込まれた(横長システム)		p72-旋回＜渦巻＞		p70-ゲリュスト(インスピレーション)
	p69-織り込まれた(丸システム)		p74-織り包まれたもの		p75-豪華な
					p76-さまざまな「織り込まれた」作品

必須グループに入れたものは特徴があります。まずは骨組みでは、上記（知識）の所に書いた、基礎科①の最終確認が全てできます。その流れで誕生から全ての基本的な考え方を学んでください。さらに「織り込まれた」では2つの特殊なシステムは、今後も活用性があると認識していますので、是非ここで学び取って欲しいです。おすすめに入れた3テーマも造形力・テクニックの向上に繋がります。基礎の最終章（基礎科③）にあがる前に、歴史の流れで押さえておきたいカテゴリーです。

Chapter 3

花職向上委員会では、花束に関して多くの情報を取り入れておりません。基礎科①では基本的な「パラレル・スパイラル」を中心にしており、こちら（基礎科②）でも、花束のみの特殊テクニックの紹介を基本としています。それは造形やデザインに、花束もアレンジメント（挿し花）も区別はないと認識しているからです。手の中か、吸水性スポンジの中かの違いだけです。これが私たちのスタンダードな考えです。さらに知識として「解かれた構成」もありますが、これもアレンジメントとの区別はなく、今回の花束で習得しつつも、アレンジメント等で活かしていただきたい知識です。

	p105[技術]ブーケフォルダテクニック				
	p106[技術]花束テクニック		p107[知識]解かれた構成		
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ	memo	C: 深掘りタイプ
	p92-枠組みのある花束		p86-モダンプロポーション(フォルダ&花束)		p98-花瓶花束
	p94-下組のある花束(丸型)		p90-解かれた構成		p99-高く束ねられた花束
	p94-下組のある花束(横長)		p100-立つ花束 ※ep4・デザイン造形にて		p102-縁取りのある花束
					p103-横長に展開する花束

枠組み、下組の花束を必須としたのは、見よう見真似ではなく、確実な知識・技術として習得していただきたいからです。動画でも伝えられない部分もあるので、リアルな場面でのディスカッションをしていきたいものです。モダンプロポーションも捨てがたい内容がありますが、解かれた構成含め「おすすめ」としました。多くのパターンで花束の造形はチャレンジして欲しいです。アレンジメントとの境を作らないように柔軟な発想で様々なチャレンジください。

Chapter 4

かなり特殊な知識が必要な部分です。そして日本間違った方向に走っている案件でもあります。最初に伝わった手法が問題で（間違っており）その後の修正・訂正・改正が行われなかった、大変悲しい事実がグラフィックの歴史に存在します。関係者（最初の出版著者の弟子）として、しっかりと事実に基づき、さらに異業種との理論形態との整合性を踏まえ、まともなおしています。この案件は師匠から託された部分もあり、かなり気を配って、内容の精査をしております。今までの知識などを一度撤廃してから内容の確認を行い、照合して頂ければ幸いです。

	p136[知識]グラフィック全般				
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ	memo	C: 深掘りタイプ
	p114-始まりのグラフィック		p116視点を変えたグラフィック		p118-伝統的・純化したグラフィック
	p124-グラフィック+α		p120-純化したグラフィック		p126-形式的
	p128-基本のグラフィック		p121-連動したグラフィック		p127-植生的
	p130-グループで1つのグラフィック		p122-形象的		p134-独自のグラフィック
	p132-純化+基本グラフィック				

フローリストにとって必要なことなのか？！ そう考えてしまう内容もあるかと思いますが、しかし「いけばな」の生花と私たちの「Vegetative（植生的）」は異なります。何が異なっているかと言えば、現象形態という理論形態を裏付けに制作しているからです。同じように少ない素材で完成させる「いけばな」との違いを明確にするにも明確な理論形態が必要となります。その1つが「図形的・グラフィック」となります。ここでは「はじまり」から応用・デザインまで学べるだけの内容を記しています。デザイン・造形としても、さらにアップデートしたいのですが、まずは基本的な部分の理解を基本としてください。

Chapter 5

基礎科①から展開しています、理論形態がようやく完結します。非対称に関しても「バランス・輪郭・構図」に要素が別れており、ようやく全てを開示できました。植物の扱い方も①から続いて、最後のパーツがここで揃います。

Chapter 1			
p26[知識]非対称バランス	非対称の知識がここで全て揃います。youtube でもパーフェクトガイドで案内しておりますので、是非活用ください。知る所から入り、活用に移行していきます。		
p28[知識]非対称性構図と構図の流れ			
p32[技術]小さな(軽い)印象			
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ
p12-モダンクラシック ブーケ		p16-さまざまな非対称	
p14-非対称デザイン ブーケ		p18-非対称(伝統と活用・さまざまな表現)	
		memo	C: 深掘りタイプ
			p22-遠心的 ※ep4・デザイン造形にて
			p24-偏心的 ※ep4・デザイン造形にて
メインとテーマは「非対称」でその中でも「非対称性構図」と「構図の流れ」に到達するのがメインの考え方です。ただ制作タイプは、なんでもいいし、どうしても必須スタイルは無いと判断しています。今までの造形、これからの造形でここで得た知識を活用ください。必須のテーマはブーケのみとなります。そして3章に続きます。			

Chapter 2			
2章は冒頭に「モダンアレンジメント」。そして特別付録「植物のタッチ(表情のあしらい)」と2部制に別れています。どちらも重要です。			
p46[知識]制作手順		p47[知識]外観(概観)	
p49[知識]構図を決める・欠点を補う			
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ
p38-幾何形体を手本として(テクニック)		p42-幾何形体を手本として(FORM)	
p41-特殊な挿し順			p44-アレンジメント
どの制作パターンも「表情豊か」をテーマにしています。制作物は履修しやすかったりする程度のもので、今後のアレンジメントにおいて、全て同様の配慮が必要だということを認識しながら履修ください。「手順の決定→外観の制作→構図の決定→欠点を補う」。アレンジメント全般の考え方、配置なども含め、基礎の最終章となるように、できるだけ多くの情報を入れてあります。イラストや多くの動画を参照してください。この情報は植物のタッチ(特別付録)そして、構図の流れ(3章)に続きます。			
p66[知識]植物のタッチ(表情のあしらい)			
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ
p56-整った表情(片面アレンジ)		p57-整った表情(ドーム型)	
p59-個々の表情(広口バスケット)		p58-個々の表情(片面アレンジ)	
p60-工業的な(表情)タッチ			p63-標本的
			p64-工業的なタッチ(デザイン)
章のはじまる前、6・7・8pageから展開する植物のタッチは、花業界の発展に確実に必要な要素となります。整った表情・個々の表情・全体もしくは個々で奏でる美しさ・工業的・標本的・無表情・表情豊か・無秩序。キーワードやタイトルだけでも多くのものがあります。本書では様々な角度(絵画・著作権・祭壇・芸術 etc)からこれらの解説をしており、youtube でもパーフェクトガイドで無料公開しております。多くのフローリストに「植物のタッチ」の種類を知ってもらい、相まみれない2つのタッチの活用性が高いことを知り、扱って欲しいです。この情報は花職向上委員会しか出せておりません。業界の発展の一助になるよう公開している内容です。			

Chapter 3			
初版そして基礎科①では詳しく解説しています、非対称からなる「構図」の理論は、これにて完結します。最初からこの話をしても、なかなか理解できる人が少なかったのではないのでしょうか。手順として非対称の性質を「バランス」「輪郭」「構図」に分類しそれぞれの特徴、活用方法を解説してきました。特に構図にとっては、対称性・非対称性の違いから入らないといけない、さらには(構図の)動きをどのように受け取り、活用するかによって、花の世界だけでなく、造形の世界観の展開も異なってきます。理解した人にとっては、なぜこれが標準でないのかと思うところでしょう。			
p95[知識]構図の種類		p100[技術]花の向き～常識と非常識～	
p97[知識]構図の流れ			
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ
p78-対称形の花嫁の花束		p76-ハンキングバスケット	
p82-古典的配置からの借用		p90-オブジェクトハフト	
p84-花の絵からのインスピレーション			p86-アール・ヌーヴォー ※ep4・デザイン造形にて
			p88-スタイルミックス ※ep4・デザイン造形にて
理論内容は、どのような業態、デザイン、造形を問わず考えていけるものですが、おすすめ・必須のチョイスは別の視点からピックアップしています。まずは非対称のデザインばかりが目立って、またはおすすめのように思いがちですが、対称形(輪郭)の方が視覚的にも安定し、中身(構図)の非対称性や構図の流れで、躍動感を与えることが、花の世界の骨頂の業だと考えています。			

Chapter 4			
アイナnderの考え方を重要視しているのは、フラワーデザインが発展する為に、どのように誕生し、構成(考え方・作り方)として成り立ったかを伝えたいからです。なぜなら後世にも研究を続けて、全く新しい「テーマ」が誕生するプログラムのなものを書き留めたかったからです。そういった流れで最初は、アイナnder(構成)の紹介のみと考えていましたが、基礎が終了するということで、テクニックの紹介で番外が増えました。			
p118[知識]アイナnder			
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ
p106-アフアイナnder(テクニック)		p109-aufeinander(過少プロポーション)	
p112-ゲーゲンアイナnder		p111-ネーベンアイナnder	
		p116-ドゥツヒェン	
		memo	C: 深掘りタイプ
			p101-ユーバーアイナnder
			p114-ナーハ インネン フューレント
			p115-アウシュプライデント
ここで知って欲しいのは、考え方がメインです。ただ実技においても、様々な確認もできますので、是非行ってください。特に、リズムカル・フィギュア・挿し順・構図・植物のタッチ、基礎の全てにおいて、履修確認を必須と考えておいてください。それをもって、基礎の最終章といたします。			

Chapter 5			
基礎科①の1章から紹介しております、植物の扱い方6つの方法、残り植物を外からみでの扱い方の2つをここで完結。			
p136[知識]植物の扱い方(外面)			
p139[技術]植物のタッチ(無秩序)			
memo	A: 必須グループ	memo	B: おすすめテーマ
p126-素材の自然な扱い方(ライト)		p135-静物画(別の制作方法p140)	
p130-静物画			p128-素材の自然な扱い方(デザイン)
素材の自然な扱いは、とてもシンプルな扱い方です。自然にできるようなものですが、プロらしい解釈で進めてほしいところです。一方「死んだ自然・静物画」に関しては、植物のタッチを十分理解し、他の植物と干渉しない「距離・向き・空間」を会得した上で、異世界観も集合美を楽しんでいただきたいです。			

初版(前書) ④

アラカルト — 歴史・テクニク・デザインテーマ —

初版の出版で、シリーズを決定できなかったこともあり、まずは人気取りの「アラカルト」としてスタートしました。内容には基礎も含み、お伝えしたい内容を深掘りせずに、簡略的に内容を記したものです。以下のメニューは、本書とは関係なく、デザイン・造形として今後研究していきたいテーマの羅列です。ただし、①＝基礎科①のように、本書に掲載のデザイン・造形のテーマのリンクを記しておきます。

基礎科②のクラシックフォームに由来することが多く、そのうえデザイン性が強いものは、基礎ではなく「デザイン・造形」として受け止めています。これらのテーマは、初級者からできますが、知識・テクニクが増していけば、考えること、注視する部分、こだわる部分も異なり、新たな一面も見えてきます。かたちからの発展だけあって、解りやす方向です。

型からのインスピレーション	
④p42・ピラミッド＝インスピレーション	④p41①p136③p45・古典的を手本として
④p20・ウムクランツェン	④p36②p36・独自のクラシッシュフォーム

フラワーデザインにおいての、歴史的発展、テクニク等をあつめています。すでに基礎①②③に掲載のものもありますが、基礎的部分でなく、改めて履修や研究する価値のあるものを掲載しています。歴史を学ぶことによって、短期間で現代のテクニク（知識）を習得することができるものと認識しています。2021年より「デザイン・造形」をメインテーマとして行っている、花職向上委員会のセミナーでも以下のレジュメを使用しようと考えています。

歴史とテクニク	
④p54・ブラウトシュムック(歴史と基礎)	④p58p62②p72・旋回swirling
④p55・ブラウトシュムック(デザイン)	②p76・織り込まれた(デザイン)
①p64・パラレルシュトラウス(東)	③p112・Gegen_einander
②p100・立つ花束	③p114・外へ広がる＋導き戻す
①p138・スタンディング＝シュトラウス	③p116・ドウヒツエーン
2021年 色と形(感情)	④p33・分断と変化
④p35・対比(大小／中央と周辺など)	①p51②p51・異化効果(様式の分断)
③p76・根付テクニク(ハンキングなど)	④p68①p35・自然界に即して(グルーピング～他)

印象と解釈では大きく異なりますが、出発点と同じテーマであれば、その中身を深掘りしデザインしていくことは、新しいチャレンジにも繋がっていくと考えています。表現の世界、自然界の世界、時代によって変化していく事もあり「新しい効果」も取り入れながら、進めていきたい内容です。様式学においても、先代の指向(思考)を今一度、再検討を測り、今の時代に即したインスピレーションで発展していきたい考えです。その際に「印象」「解釈」をより展開できたらと感じています。表現する時代によって変化する表現の世界です。

印象(解釈)インスピレーション	
[様式学]ロマネスク(過少プロポーション)	③p84・マーラリッシュ(絵画)
[様式学]ゴシック(ヘッケ)	①p75・マーラリッシュ(自然)
[様式学]ビザンチン	④p14①p75・ロマンティック+詞的
[様式学]バロック	④p10・ノスタルジー
②p102・[様式学]ロココ(ブケットシュティール)	④p11・田舎風
③p86・[様式学]アールヌーヴォー	②p75・オペレント
[様式学]アールデコ	季節の印象(春・夏・秋・冬)
2021年 ④p94・ランドシャフト 印象	素材からのインスピレーション
2021年 ④p98・ランドシャフト 解釈	

人間の持っている、基本行動から成る造形を「基礎造形」として位置付けています。メインのテーマと近かったり関連したものを同時に入れてあります。時代・考え方・切込み方・主眼の位置によって変化していく造形の世界は、基礎が無くても高等なデザインができると言われています。制作者の力量も試させられる、楽しい定義です。

基礎造形 等	
④p77p80・アクセント(満たす+集める)	④p90③p22・遠心的
④p78・ホイフング(基礎)	④p74③p24・エキセントリック
④p76p79・ホイフング(素材・層状)	④p81・束ねる
②p121・並べる(変化・移り変わり)	④p69・圧(静と動)風

テーマや作品に影響を与える「効果」について、研究をしていきます。どのテーマにも「アンサー」はありませんが、時代や背景(レベル等)の変化で、ディスカッションが楽しくなる定義ばかりです。しっかりまとめて、次の時代へ渡していきたい内容です。

効果とテーマ	
④p18①p132・重点を他の領域に移す	ガーデンシーン
④p19③p90・オブジェクトハフト	④p29・シーン
①p137・装飾効果	①p134・タブロー
④p27・自己完結	④p100③p88・Stilmix
④p32・魅せる場所の変化	④p106・②p134・独自のグラフィック
④p23・メルツ	新機能(器づくり)
④p114・関連づけ	2021年 ベアリング
抽象化	2021年 ④p13・有機的
形象純化法	④p117・パオム(樹木)
④p34・非形象構成法	④p119・①p139・平面と立体
①p140・フローラルアート	2021年 ④p118・人工と自然